

平成29年（2017年）は酉年です！

「酉」の字は、一般的には「鶏」つまりニワトリを指すと思われそうですが、ここでは生物多様性センターらしい解釈として、千葉県内に生息する鳥の中から「縁起のよい鳥」として人気のある2種を紹介いたします。両方とも県内全域に広く生息し、古くから里山で親しまれてきた鳥ですが、だんだん数が減り、千葉県レッドリストでは「重要保護生物B」とされています。運良く姿を見ることができたら、ぜひ写真を撮って調査団にご報告ください。

フクロウ（県レッドリスト：B）

フクロウは夜行性で、暗くなってから「ゴロスケホッホオッ、ポロ着て奉公」と鳴きます。ゆったりとした動きは「森の賢者」のイメージで人気があり、「不苦労」や「福ろう」といった語呂から幸福の象徴とされています。木のウロで子育てをするため、大木の残る社寺林に多く、自然公園などでは、フクロウ用の巣箱を掛けて繁殖の手助けをしている場所もあります。フクロウのヒナは夏、まだ飛べないうちに巣立ち、地面を歩いて移動しますので、見かけても捕まえないようにしましょう。

千葉県では、フクロウの仲間にはほかにトラフズク、コミミズク、アオバズク、オオコノハズクが見られます。



オオタカ（県レッドリスト：B）

精悍な顔つきと勇猛な狩りの様子から、最もタカらしいタカとして人気があります。学名は *Accipiter gentilis fujiyamae* で、富士山の名前をもらっています。カラス位の大きさでお腹が白ければオオタカの可能性が高いので、ぜひ空を見上げてみてください。

古くは西暦335年に仁徳天皇が鷹狩りをした記録もあります。織田信長も鷹狩りを好み、戦国時代以降の記録では鷹狩りの鷹はオオタカが主流だったことがわかります。「御成街道」は徳川家康が東金で鷹狩りのために造らせたもので、2代将軍秀忠は9回もこの道を利用したそうです。



平成 28 年度 第 2 回現地研修会を開催しました

香取神宮・水の郷さわら自然観察湿地で森と川の生きものを観察しよう！

平成 28 年 9 月 24 日 (土)

あまり芳しくない天気予報を心配しながら、降り出したら途中中止もやむを得ない、と決心して集合場所の香取神宮へ向かいました。団員 54 名(うち 12 歳以下が 12 名)、生物多様性センターと自然保護課の職員 10 名、計 64 名が参加しました。

今回は歴史ある香取神宮での開催ということで、^{ごんねぎ}権禰宜の佐川和浩さんと、この地域のガイドをボランティアでされている川崎寛美さんにご案内をお願いし、生きものの採集と観察も特別にご許可いただきました。トキホコリ(千葉県 RDB ランク B)、ヨウラクラン(同ランク D)などの植物を観察しながら参道を進み、まず本殿を参拝。そして本殿左から後ろへまわり、香取神宮の森へと入って行きました。

鹿苑前のぬかるんだ草地でニホンアカガエル(A)、ヒバカリ(D)、ヒメカマキリ(C)、スジグロシロチョウ等を発見。ひとしきり昆虫・小動物採集をしてから、次は参道にある池で水生生物の調査。かけておいたワナをあげ、網で水中を探ってコイ、モツゴ(D)、トウキョウダルマガエル(B)等をつかまえました。しかし正午をすぎた頃、突然、大粒の雨が降り出してしまい、昼食場所として用意していただいていた神徳館へと急いで、ほっと一息。昼食をとりながら、「利根川の東遷と川の魚類」と「香取神宮の森に住む小鳥」について、それぞれ生物多様性センターの鈴木規慈、中込哲によるスライド解説、午前中に森の中で採集した樹木の葉の名前あてなどを行いました。残念ながら雨が降り止む気配はなく、ここで今回の現地研修会は終了となりました。午後の観察場所として予定していた水の郷さわら自然観察湿地へ帰りに立ち寄り、傘をさしながら水辺を見てみましたが、かなり増水し、下見で見た川原の植物や昆虫の観察は残念ながら無理な状況でした。

参加した団員へのアンケートでは、香取神宮の普段は見られない場所を拝見できたこと、想像以上にたくさんの生きものがいるのを見られたこと等を喜んでいただけたようでした。



「千葉県と連携大学との研究成果発表会」を開催しました

平成 28 年 11 月 26 日(土)に千葉科学大学(銚子市)で、「野生生物の保護管理～野生鳥獣の増殖と外来生物問題を中心に～」をテーマに千葉県と連携大学(江戸川大学、千葉大学、東京大学、東京情報大学、東邦大学、千葉科学大学、千葉工業大学)との研究成果発表会を開催しました。翌日のエクスカーションでは銚子市内のイノシシの生息状況を千葉科学大学の加勢ちひろ助教のご案内で見学しました。聴講自由で毎年秋に開催していますので、ぜひご参加ください。

生命のにぎわい調査フォーラム&写真コンテスト

平成 29 年 3 月 4 日(土) 午後 1:00 ~ 4:00 中央博物館講堂にて

観察事例紹介と写真コンテストの応募をお待ちしています(締切:事例紹介 2/6(月)、写真コンテスト 2/20(月))

〈これからの季節に観察できる生きもの〉

- 調査対象種: イタチ、キジ、アカガエル類(卵)、トウキョウサンショウウオ(卵)、ニホントカゲなど
- 調査対象種以外(種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします)
- *冬のタカ類、フクロウ類、ハヤブサ類 *タヌキ、ハクビシンなど哺乳類 *両生類、爬虫類など
- *希少生物(生息・生育数が減少している生物)や、外来生物の報告も受け付けています。

メールアドレスなど、団員登録情報に変更がありましたら、事務局までお知らせください